

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成25年12月26日(2013.12.26)

【公開番号】特開2012-107910(P2012-107910A)

【公開日】平成24年6月7日(2012.6.7)

【年通号数】公開・登録公報2012-022

【出願番号】特願2010-255376(P2010-255376)

【国際特許分類】

G 01 M 11/02 (2006.01)

【F I】

G 01 M 11/02 B

【手続補正書】

【提出日】平成25年11月8日(2013.11.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

前記光学特性を測定するために前記レンズに測定光束を投光する光源と、前記測定光束を受光する受光素子と、を有する測定光学系と、

前記測定光束の少なくとも一部が通る孔を持つレンズ載置台と、

前記レンズが枠入れされている眼鏡フレーム又は前記フレームに枠入れされている前記レンズを当接させてその動きを制限させるためのフレーム支持部材であって、前記レンズ載置台に対して近寄る方向及び遠ざかる方向に移動可能なフレーム支持部材と、を備え、

眼鏡レンズの光学特性を測定するためのレンズメータにおいて、

前記フレーム支持部材の位置を検知する検知手段と、

前記検知手段の検知結果に基づいて、前記フレームの下部及び／又は前記レンズの下端と前記レンズ載置台の孔との位置関係を報知するための報知情報を出力するための報知手段と、を有する、

ことを特徴とするレンズメータ。

【請求項2】

請求項1のレンズメータにおいて、

前記レンズ載置台を収納するために前記フレーム支持部材の前面に形成されている開口を有し、

前記検知手段は、前記開口内に前記レンズ載置台が収納される又は収納された所定位置を検出するセンサを含む、

ことを特徴とするレンズメータ。

【請求項3】

請求項1又は2のレンズメータにおいて、

前記レンズは、下方に近用部を持つ累進レンズであり、

装置の測定モードを累進レンズ測定モードに設定する設定手段と、

累進レンズ測定モードにおいて、前記検知手段の検知結果に基づいて前記フレーム下部及び／又は前記レンズ下端が前記レンズ載置台の孔に掛けたことを検出して前記近用部の光学特性を取得する演算制御手段と、

を有する、

ことを特徴とするレンズメータ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上記課題を解決するために、本発明は以下のような構成を備えることを特徴とする。

(1) 前記光学特性を測定するために前記レンズに測定光束を投光する光源と、前記測定光束を受光する受光素子と、を有する測定光学系と、前記測定光束の少なくとも一部が通る孔を持つレンズ載置台と、前記レンズが枠入れされている眼鏡フレーム又は前記フレームに枠入れされている前記レンズを当接させてその動きを制限させるためのフレーム支持部材であって、前記レンズ載置台に対して近寄る方向及び遠ざかる方向に移動可能なフレーム支持部材と、を備え、眼鏡レンズの光学特性を測定するためのレンズメータにおいて、前記フレーム支持部材の位置を検知する検知手段と、前記検知手段の検知結果に基づいて、前記フレームの下部及び／又は前記レンズの下端と前記レンズ載置台の孔との位置関係を報知するための報知情報を出力するための報知手段と、を有する、ことを特徴とする。

(2) (1)のレンズメータにおいて、前記レンズ載置台を収納するために前記フレーム支持部材の前面に形成されている開口を有し、前記検知手段は、前記開口内に前記レンズ載置台が収納される又は収納された所定位置を検出するセンサを含む、ことを特徴とする。

(3) (1)又は(2)のレンズメータにおいて、前記レンズは、下方に近用部を持つ累進レンズであり、装置の測定モードを累進レンズ測定モードに設定する設定手段と、累進レンズ測定モードにおいて、前記検知手段の検知結果に基づいて前記フレーム下部及び／又は前記レンズ下端が前記レンズ載置台の孔に掛けたことを検出して前記近用部の光学特性を取得する演算制御手段と、を有する、ことを特徴とする。